



恒例 自由研究発表会

部長 目崎 淳

秋分を過ぎますと、朝夕が涼しく感じられるようになってくるのですが、今年は例年にない暑さが9月下旬になっても続いています。毎日熱中症指数を計測していますが、数値が高止まりしており、外遊びが思うようにできていない日々です。初等部生は、校舎内でさまざまな工夫をしながら落ち着いた学校生活を送っています。

9月の上旬から中旬にかけて、どの学級においても「国語」などを活用して、「夏休みの自由研究発表会」が行われています。初等部では、「夏休みの自由研究」とその後の発表会を、毎年この時期に伝統的に行っています。各自がテーマを自由に決定し、実験や観察を経て自分なりの結論を導き出したものや、実際にその場所を訪問して自ら見たこと、感じたことを中心にまとめたものなど、その内容は学年を問わず多岐にわたっています。科学・数学・歴史・公民・調理・紀行・身の回りの不思議など、どれをとっても興味深いものばかりです。私は、いくつかの学級で行われている発表会を見学したり、廊下に展示されている作品を鑑賞したりすることができました。少しでも発表を聞いてみようと思っ立止まっているつもりでしたが、内容に引き込まれてしまい、最後まで発表を聞いてしまうことが多々ありました。また、展示されている作品も、可能な限り手にとって鑑賞いたしました。どれも個性あふれる素敵なものばかりで、感心いたしました。

学校教育における「自由研究」は、いつから続いている課題でしょうか。歴史を調べてみると、戦後は小学校の一教科であったようです。「個人の興味関心に応じた学びを深める」目的で始まりました。その後、教科としての自由研究は廃止されましたが、夏休みの課題として続いてきました。自由に課題に取り組みせることで、子どもたちによって個性的な興味深い研究がなされてきたこと

が評価されてきました。それこそ、今日まで自由研究が夏休みの課題として続いている理由だと思います。



さて、自由研究のテーマを子ども自らが決定し、自分が好きなことを掘り下げる絶好の機会と捉えることで、知的好奇心が養われていくと考えます。研究しているうちにさまざまなことが分かり、分かるからこそ楽しく学ぶことができます。そして、自分で決めたからこそ最後までやり抜こうとする経験にもつながります。やり抜いた達成感は、子どもの将来への糧になります。自分で決め、自分で考え、課題解決に向けて努力する力が、これからの社会を生き抜く上でも必要な力に結びついていきます。

全国学力・学習状況調査の結果等によると、今の小学生は「事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られる」と言われています。初等部で毎年行っている「自由研究発表会」をそれらに照らし合わせてみると、初等部の子たちは研究してきたことをふまえて、発表する内容や順番を工夫し、その根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを堂々と発表する様子が見られました。これからも、効果的な資質・能力のさらなる育成のため、記録、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫して行っていきたいと思っています。